

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本

<テーマ設定理由>

○キッズタウンむかいはら保育園にはクラスの本棚の他に絵本コーナーが3ヶ所があり、特に2階の絵本コーナー（30㎡）には、子どもが自由に好きな絵本を選べる環境を作り『絵本』に力を入れている。

『絵本』を通して興味関心を広げたり、調べたいという探求心、物語からの表現力や情緒など感情について、文字や言葉の獲得など成長には欠かせないツールのため、子ども達の絵本好きをより深めたり、いつでも読みたい絵本コーナーの作製を行う。

○板橋区が『絵本のまちいたばし』として絵本に力を入れており、毎月図書館の読み聞かせや区からの各家庭に赤ちゃん絵本の配布など子ども達は絵本にふれる機会が多く保育園でも開設当初から絵本に力を入れ大切にしてきた。改めて子ども達、職員共に絵本について考える機会にする。

○昨年度から引き続き『絵本』をテーマに進めていく。

<内容>

○子ども達中心に新しくデザインした絵本コーナーにいることでより絵本を好きになったり、家具や絵本の変化によりわくわくな発見を高めたり、発見を次に生かし良いものに変化を続ける様々な検討を続けていくことで空間にどんどん良いものする。

○絵本について子ども達一人ひとりやみんなで色々なアプローチで考えたり、共有したり、表現したりしていく中で絵本について深く探求する機会をつくり絵本を通しての心身の成長につなげたり、絵本を読み解き表現や製作等に生かしていく。

2. 活動スケジュール

①あたらしい絵本コーナーどうやって使おうかな

今までの話し合いで子ども達から出た設置したい家具や物、空間などを絵本コーナーに設置し環境を整え、クラスごとや異年齢で絵本コーナーを使う中で子ども達の様子を観察する。

②だいすきなえほんをみんなに紹介

昨年から今まで以上に絵本について子ども達と考えたり、絵本に触れる機会が増えてきたので、子ども達からも「この絵本おもしろいよ」、「これみんなで読もう」などお互い絵本を紹介したり、自分の好きな絵本をみんなに伝える姿が見られていて、その気持ちを大切に、他のクラスや保護者にも伝えるように絵と文字で『ぼくのわたしのおすすめ絵本』として紹介できるコーナーを作成する。

③絵本コーナーを綺麗に使おう

靴を脱ぎ芝生コーナーを作ったが上履きの脱ぎ方や靴箱の入れ方が雑然としているのでその改善を子どもたちから提案、制作してもらう。

④絵本を作ってみよう

絵を描くことも大好きな年長の子も達 1 枚の紙にいろいろな物語を込めて描いているので絵を描く紙を冊子状にし、オリジナルの物語や絵本を作成し、全体へ読み聞かせや発表、披露する場面つくる合わせて好きな絵本をみんなに伝える発表の場も作っていく

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・絵本コーナーでの時間も多く作ったり、いろいろな場面で絵本に触れる機会を作ったので（SDGs 一環で小中学校にお知らせを出し園児に絵本のプレゼントをしてもらう会）たくさんの本に触れていく中でお気に入りや好きな絵本を見つけれるよう環境を作るようにする。
- ・絵本にたくさん触れていく中で多くの子が文字に興味を持ち、文字の獲得につながってきたので、絵や文字も描きやすい用紙を準備してみる。字については得意不得意があるので線を引いて描きやすいは配慮を行う。4 歳児は文字ではなく絵で表現できるようにする。

4. 探究活動の実践

（活動内容）

②だいすきなえほんをみんなに紹介

昨年から今まで以上に絵本について子ども達と考えたり、絵本に触れる機会が増えてきたので、子ども達からも「この絵本おもしろいよ」、「これみんなで読もう」などお互い絵本を紹介したり、自分の好きな絵本をみんなに伝える姿が見られていて、その気持ちを大切に、他のクラスや保護者にも伝えるように絵と文字で『ぼくのわたしのおすすめ絵本』を作成し、紹介できるコーナーを作成する。

（活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育士とのやり取り）

職員やお友達に「この本好きなんだ」と伝えてくれ「読んで」「一緒にみよう」など絵本が大好きな子どもたち。みんなの好きな本をたくさんの人に知ってもらうのはどうしたらよいかと投げかけると「紙に書いて配ろうよ。」「絵を描いて玄関の LaQ の横に飾ろうよ」「クラスの入り口に飾るのは」「ケータイに送るのは」などの様々なイメージが出てきました。

さまざまな意見が出て最後は壁に飾るチームと図鑑みたいにまとめるチームの2つの意見となりまずは自分の好きな絵本の紹介紙を作成することになりました。

せっかくなら完成した作品は色々なところにまず飾り、たくさんの人に見てもらい最後に図鑑にまとめることになる。

5 歳の話し合いや作品作りを隣の部屋から興味を持って見ていた 4 歳児。

階段の掲示板に飾ることを知り「私たちもやってみたい。」「好きな絵本を絵に描きたい」と多くの声があり 4 歳児はまだ字は難しい子もいるので絵のみの用紙も用意し自分たちで好きな紙を選択できるようにする。出来上がると通る先生に「先生ちょっときてー」「これしってる」見せて回っていました。初めは興味の持った子だけでしたが、5 歳児の作品が出来上がったり、同じクラスの友だちが出来上がるのを見て「わたしもやっぱりやりたい」との声が多くなり全員が一枚以上描いていました。

5 歳児の飾ってあった場所に交代で次は 4 歳児の作品を飾ると学年の変化や一人ひとりの個性等を見ることができたようで、保護者の方は一人一人の作品を見て子どもたちだけが知っている絵本も多かったようで新しい知識としての広がりがあったり、子どもたちはお迎えが来ると保護者と一緒に作品を見てそのまま絵本コー

ナーでおすすめされた絵本を探して親子で読んでいる姿もみられるようになった。

各クラスの絵本を紹介したシートは学年ごとにまとめるようファイルにまとめようとファイルを用意すると子ども達は「えほんしょうかい」って書かないとわからないよ「かわいい絵も描こうよ」などファイルにオリジナルのデザインいれていきました。完成したファイルを本棚に入れると非常に目立ち様々な学年の親子がまず手に取って中身を見る姿がみられました。

(写真)

☆5 歳児



<作品掲示・製本>



☆4歳児



(振り返り 気づき)

4歳児の興味は張り出しをしてから興味の出た子から順番に進めていこうと考えていたが異年齢の交流も多くクラスの子が来て遊ぶことも多いのでいつもと違う活動をしているとすぐに興味を持つことができている、1人の子がやってみると周りの子もわたしもすぐにチャレンジしていて子どもたち同士でも相乗効果が大きくあった。

一冊の本にまとめ絵本ガイドとして絵本コーナー置いて絵本の世界を広げるツールとしてこの絵本ガイドによりお迎え時に親子で絵本を探し、一緒にページをめくる時間は、自分がお気に入りの絵本(世界)を大好きなお母さんと共有できるという安心感や両親の温かな声で語られる物語は、子どもの情緒を安定させ、愛着形成や自己肯定感を高めました。

他にも絵本を通して知った話を一緒に読むことで、「ここが好きなんだよね」といった日常とは一味違う深い対話が生まれたり、多様な絵本に触れることは、語彙力を高めるだけでなく、世界を広げる窓となり、新しいジャンルの本に出会うことは、「もっと知りたい」という学習意欲の芽生えを促すなお土良い効果が見られたと思う。

絵本の紹介を通して親子で絵本を読む時間や機会が増えたり、自分の好きなジャンルではない絵本にも興味を持ち職員と読むなどいつもとは違う絵本を笑顔いっぱい読んでいた。